
今日こんな事がありました.....

龍馬

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今日こんな事がありました……

【著者名】

龍馬

N6262A

【あらすじ】

まあ、なんとなく書きました。一部ノンフィクションです

(前書き)

暇だつたら呼んで見て下さい。別に文頭で言つてゐるよひな大変な
事は起きてませんね

ああ、今日程焦った日が今までに会つただろうか？

いや、無い。絶対無い。高校受験の日に寝坊してテスト受けれなくなりそうになつた事もあつたが、（いや、それよりはマシか。）それでも僕は慌てることなく冷静に対処出来た。

まあそれは関係無いとして……まさか今日、こんな事になるなんて誰も思いもしなかつたであろう。

事の始まりは今日の午後、四時間の講義も終わり家に帰り、暇にしていた時だ。

突如携帯が鳴り響き、おもむろに僕が画面を開き相手を見ると、取つている講義が殆ど同じ、大学の友達からの電話だった。彼はこう切り出した。

「もしもし、龍馬。今日文化祭の準備やりに一緒に学校いかないか？」

ほおほお、成程。つまり彼は今度行われる文化祭の準備に自分が行くから、僕と一緒に行こう。と言つているのだ。

「ああ、いいよ」

特に用事も無く暇だつた僕は断る理由も無く、了承した。

「じゃあファミレスで会おう

と言い彼は電話を切つた。

今考えたら少し怪しい……なんでわざわざファミレスになんて行くんだ？

僕は家から出て原付バイクに乗り、彼と待ち合わせたファミレスに入り、彼がまだ来てなかつたのでアイスコーヒーを頼み、待つことにした。

暫くして、彼は現れた。しかし、一人では無かつたのだ…… オイ

オイオイ！何だいつらはあ！

そこに現れたのは一人の“ヤ”が付いてそうな人達と友人、S氏
だった。

一体こいつあどういうことなんだ？

僕がS氏に尋ねようとすると……あちらから先に話かけて來た。
内容は……『宗教の勧誘〜！？』

やつてられつかこの糞馬鹿野郎！テメエ何してくれてんだ、どた
まぶち抜くぞこの野郎！！

と言いたくなりましたが、抑えて……

彼等の話をひたすら聞き続けました。

まあ、元々あまり宗教には良い噂を聞きませんし、入る気なんて
サラサラありませんでしたが、最終的に彼等は『入らないと不幸に
なる』及び、もっと酷い事を連発してきたので、僕も少し力チンと
きて席を立ち帰ろうとしました。

しかし、何故なんでしょうね？僕は宗教に入る気なんてサラサラ
ないし、宗教に入ってる人の気持ちも分かりませんが、宗教自体を
否定するつもりはありません。

ですが、何故嘘をついて誘いに来たのか？

何故自分で無く、他の人も連れて來たのか。

自分が信じる物なら自信を持つて進めればいいのに……と、思いました。

それと、なんか付いて来そうな雰囲気だったので、忙いで店を出
て、マイ原付に乗り込み颶爽と逃げました。

「いやぜ相棒。今、お前に命を吹き……（略）

と、咳き原付を加速させ、忙いでその場を立ち去り、

本当はそのまま帰るつもりだったのですが、文化祭の準備を手伝う約束をしてしまったので、学校に向かう事にしました。

学校に着くと、キャンパスは非常に活気づいていて、良い雰囲気でしたよ。まだまだ皆若いなあ～なんて思いつつも、僕も参加して楽しく準備何かをしてました。

それから楽しく看板を作ったり絵を描いたり、何か他がやらないことをやってみないか？みたいな展開になつたので、色々案を出してみたり

ちなみにその時出た案の一部を抜粋してみると……

案1 -『女子がエロイ格好をする』

まあ、これは……言つまでもありませんよ。なんか高校の時にもあつたよ、こいつの

案2 -『メイド喫茶風』

馬鹿か？却下だよ。

案3 -『スプレーする』

格好なんて飾りに過ぎんのです、シチュエーション次第でいくらでも萌える事は出来るのです。盲目なオタクにはそれが分からんのです！

ああおい……某整備しみたいな事言つちやつたよ。

案4 -『私の弟、ガルマ・ザ（略）

それ案じやねえだろ、質問じやん。……坊やだからと

案5 -『もう、ネタギレ』

そりか……

と、こんな事をしてこる間にバイトの時間になつたので、僕は先に帰りました。

よく考えたら結構時間もギリギリだったので、飛ばしていくと、前の方で事故があつたらしく、警察がいたのですが……止まってる暇は無かつたため

「お前に魂があるのなら……応えろ!」

脳内で呟き、一気にバイトしている本屋に向かいました。

まあ今日はこれだけで色々ありましたが、本屋でいつも通りボーッとしてたら、今日という日も終わると思つていました。

しかし、今日は厄介な日でした。

「Jの本返品してくれない?」

と言つて来たのはいかにもワガママそうなオバハン。

僕は本を受け取り、一応返品しようと思つたのですが、なんとそのオバハン、レシートを持つていなうそです。

それじゃあ、無理だよ。しかしあのババアは何故か僕につつかかります。

まだ綺麗だから。

レシートはこの店で捨てたからあるはず。

店長呼んでこい!

等々。

「……分かるけど、君の言つこと分かるけど、でも“僕”は今泣いているんだ!これは仕方の無い事だつて!全て僕のせいだつて、そう言つて君は撃つのか!?”僕”が今守ろうとしているもの(問題起こしてクビになつたら食費が稼げないので、やめる訳にはいかないのです)を!」

「でも……Jっちはだつて、夫の給料が少ないから、だから……僅か

なお金でも、大切なんだ

「ならば僕は、君を撃つ！！」

あれ、俺なにやつてるんだっけ？

まあ、このオバハンは華麗に別の人任せで、グータラしていると、次にまたもや厄介な奴が現れました。しかしあのオバハン、本当に某真紅の機体並にハツ裂きにしてやりたかつた……

「タイトルが分からないんですけど……」

「作者は？」

「それも分からないんですけど……」

帰れボケ！

と、言いたい所だつたんですが……その子、なんだか内気な感じで本とか凄く好きそうな可愛い子だったのに、ついつい「わかりました！直ぐに探しします」

なんて言つてしましました。

いや、だがもししかしたら女は魔性。騙されているのかもしれない。くつ、しかしこの子の守りたくなるような愛らしい顔を見ていると……ダメだ。僕にはこの愛らしい女性を疑う事なんて出来ない。そんな勇氣も、力も無い！

『力が欲しいか？』

え、ちょっと、おい……

『ならばくれてやる！』

いらぬ、おい！ちょっと、いらぬ……

ああ、なんだ A R S が発動するかと思つた。反物質生み出すと
こだつた。

まあこの子も華麗にスルーしちゃいました。

そしてバイトも終わり帰る時にはボロボロ（何故かは分からない）
でした。

ハイ……オチも無いまま終わります。日記ですね、ただの。

(後書き)

“ひつだつたでしょ’つか？一応感想なんか待っています。

それと……宗教は怖いですよね？

他国じゃそれが原因で戦争になつてますし

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6262a/>

今日こんな事がありました.....

2010年12月8日02時21分発行